

# 2021 年度後期第 2 回全学実行委員会議事要旨

文責 北海道大学大学祭全学実行委員会事務局 事務局長 北澤 剛

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称：

委員長(全学実行委員長)

局長(全学局長)

会計(全学会計)

楡(楡陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

工(工学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

歯(歯学祭代表)

医(医学展代表)

文(文系祭代表)

理(理学祭代表)

その他の略称：

各祭(北大祭を構成する上記の各種学祭)

委員会(委員会という場合、組織としての全学実行委員会を指す)

実委(実委という場合、会議としての全学実行委員会を指す)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

## 1. 近況報告（今後の予定について）

事務局としては、今後、「食品提供のコロナ対策の具体的な基準の取り決め」および「対面、ハイブリッド開催時の人数制限、企画の基準の作成」について、全学実委での話し合いを通して協議していく予定である。

## 2. 来年度の北大祭についての議論

### 1 開催形態について

委員長と副委員長は、第 64 回北大祭の開催形態として、前年度の開催形態も参考にしながら、以下の 3 つの案を提示した。

	メリット	デメリット
ア. 完全対面型	学生のモチベアアップにつながり、祭自体が盛り上がる。	コロナ対策が難しくなり、大学事務との交渉が難航する。

イ. ハイブリッド型	コロナ対策も行いつつ、対面開催の希望も叶えられる。	準備する側は対面とオンラインの両方の準備が必要になる。
ウ. 完全オンライン型	コロナ対策が3つの案の中で最も容易である	前年度から鑑みるに、学生のモチベーションが上がり、盛り上がりには欠ける。

委員長による開催形態の提案の後、各祭の中で小グループが作られ、以下の点について15～20分程度の話し合いが行われた。

- ・開催形態のパターン別にどういった形で北大祭を行うべきか
- ・ハイブリッド型の場合、各祭間で対面とオンラインの割合に差が生じてもいいのか
- ・対面開催時の北大祭全体のコロナ対策はどのようなものがあるか（来場者を学内限定にする、模擬店数の削減など）

## 2 食品提供について

	メリット	デメリット
ア. 例年通り	榆陵祭や IFF など、目玉企画が盛り上がる。	コロナや食中毒の危険が高く、大学事務との交渉が難航する。
イ. 簡単な調理のみ	コロナ対策や食中毒対策は例年通りの形態より容易になる。	榆陵祭や IFF は、希望通りの開催を行うことが出来なくなる。
ウ. 既製品販売のみ	食中毒発生はほぼなく、コロナ対策も容易である。	高校の文化祭とシステムが変わらず、学生が盛り上がらない。
エ. 食品提供なし	食品提供という面でのコロナ対策が必要なくなる。	榆陵祭や IFF の集客が見込めず、北大祭の収益が減少する。

委員長による開催形態の提案の後、各祭の中で小グループが作られ、以下の点について10～15分程度の話し合いが行われた。

- ・北大祭全体として、どの食品提供ラインで行うのが良いか
- ・食品提供を行う場合、どのようなコロナ（食中毒）対策をすべきか

以上2点について、委員長は、各祭代表者に対し、各祭内での話し合いを提案した。各祭同士の議論は、次回以降に行われる予定である。

## 3. その他

- ・次回の全学実委は2月7日（月）

## 4. 本件に係る連絡先

北海道大学大学祭全学実行委員会 事務局長 北澤 剛 (huf@hokudaisai.com)